



キャンパス / 大分県別府市 学生数 / 5,796人 創立 / 2000年
 基本理念 / 「自由・平和・ヒューマニティ」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」
 学部 / アジア太平洋、国際経営、サステナビリティ観光
 大学院 / アジア太平洋、経営管理
 THE 日本大学ランキング2023 / 総合=22位、国際性1位、同教育充実度3位、THE インバクトランキング2022 / 1001+位

APU2030ビジョン「APUで学んだ人たちが世界を変える。」

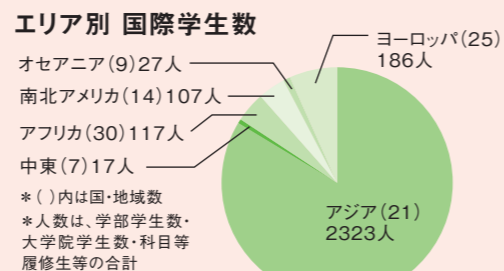
「世界を変える」人とは ●他者と協働し、対話を軸に 対立を乗り越え、社会に影響を与えることができる。 ●異なる文化との衝突や 遭遇したことのない 困難への耐性がある。 ●多様な視点やアイデアから、 新しい価値を 創造することができる。 ●自分自身のゴールを描き、 生涯学び成長し続ける ことができる。

世界基準の力を身に付ける、教育システム



注目 コロナ禍で進化した学生募集 マーケティングも入試もオンラインをフル活用

同大学の学生募集は、コロナ禍を経てオンラインやSNS中心にシフトした。国際学生の募集は、従来は各国に拠点を設けて高校訪問などで地道にリクルーティングしてきたが、コロナ禍で不可能になり、オンラインマーケティングに着手。SNSによる拡散と、プラットフォームでコンテンツを発信、資料請求、説明会、入試まで、今ではオンラインで完結する。日本人学生も同様だ。APUの価値観に賛同する保護者は東京に多いが、距離がネックだった。コロナ禍中、オンライン入試のノウハウを蓄積し、自宅や高校での受験が可能に。受験生の負担を減らし、海外・国内のどこからでも出願、受験できる環境を整えた。これを教員採用にも応用し、今では教員の出身国は26か国・地域までに増えた。しかし、学生募集の一番の武器は、世界に輩出し続けた卒業生などの「APUファミリー」だ。大学の一番のファンである彼らによる口コミが、身内や後輩の進学につながっている。「そのためにも、在学生の満足度向上が極めて重要。募集活動をしなくても学生が集まる状態をめざす」(米山副学長)。



どこでも渡り合える力を養う教育で日本のAPUから世界のAPUへ

CASE STUDY

立命館アジア太平洋大学

開学以来の2学部体制から3学部体制へ。APUは24年目の節目を「第2の開学」と位置付け、教育を通じてグローバルな生き方の魅力を発信する。



副学長 学校法人立命館理事

米山 裕

よねやまひろし ●1985年筑波大学大学院歴史・人類学研究科にて文学修士(史学)取得。1991年カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)大学院歴史学研究科退学。東洋女子短期大学欧米文化学助教授、立命館大学文学部教授等を経て、2020年より現職。2024年1月より学長就任予定。

社会環境の変化により立ち現れた2つの課題

開学以来23年間、日本人と*1国際学生の割合を半々に保ち「混ぜる教育」を続けてきました。累計166か国・地域から学生を集め、入学者の7割以上が第1志望、卒業時には8割が学生生活に満足しています。教育に手応えはありますが、次の課題も見えています。かつては、国際学生にとって入学の大きな魅力は、日本企業への就職でした。しかし、日本経済の停滞により、今では半数が海外や母国へ。今後はグローバルなキャリア構築が訴求テーマになるため、日本の経済力に頼らない大学の魅力づくりが、課題の一つです。もう一つの課題が、日本の高校生や保護者の内向きな姿勢です。グローバルな学びをリードする存在として、日本の若者に世界に打っ

学ぶ場も教職員組織もよりインクルーシブに

サステナビリティ観光学部(ST)を新設した本年は、「アジアの、そして世界のAPU」に向けて動き出す、「第2の開学」の年。まずは教育のテーマを「ポスト冷戦期の世界平和」から、テロや戦争が頻発する激動の「21世紀社会の課題解決」にシフトし、各学部で育成する人材像を明確にしました。STは観光が生み出すグローバルな交流を通して地域の持続可能性を高める人材を、国際経営学部は経済活動を通じて社会の倫理性を高める人材を、アジア太平洋学部は紛争や共生といった国際問題を解決に導く人材を育てます。共通教育もグレードアップし、看板の「混ぜる教育」を強化します。国際教育寮を増設し、日本人学生も希望者は全員入寮可能に。授業と寮生活、2つの場で世界と

対等に渡り合う度胸や自己開示力、異なるものへの許容力を高めます。加えて、学外学習を必修化し、学生モビリティを高めているSTを先導役として、学びの場を海外に移す取り組みを奨励し、現地からオンラインで正課の授業を履修可能にする考えです。

世界に飛び出す意欲を育てるには、小中高生への働きかけも必要です。修学旅行先として、年間約60校、国内外の小中高校を受け入れるほか、高校生対象の*2「探究ブートキャンプ」や、*3AIUと共催の親子向け「大学の国際化」フォーラムも実施しています。

これらの施策を支える教職員も、よりインクルーシブになるべきでしょう。役員、管理職を含め、外国籍の教職員を増やしています。意見をまとめるのは大変ですが、多様性を標榜するならば、衝突が生まれるくらいがちょうどいい。皆APUへの帰属意識が強いからこそ異論が生まれるのです。

この4月、別府市の祭りに参加した学生が「APU」コールを大合唱するなど、学生のAPU愛も相当なもの。それにわれわれも応え、大学としての輝きに磨きをかけていけば、国内外の高校生たちにも、「世界への挑戦は楽しい」と感じてもらえるだろうと思います。

*1 在留許可証が「留学」の学生
*2 ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を鍛える数日間のプログラム。学生が企画、運営を行う
*3 国際教養大学

取材・文 / 児山雄介 撮影 / タケウチトモユキ